第十一回 新城新能

とき　平成十二年八月十九日（土）
午後五時三十分始
ところ　新城文化会館大ホール
入場無料

能組

仕舞

老松　今泉尚美
西王母　今泉友美
養老　村木岳史
小鍛冶　中川斉
竹生島　清水俊典

連吟　羽衣

田中洋二

太田研司
鈴木崇史
竹内省吾
竹内三郎
加藤修貢
牧野

中嶋康夫
清水利高
森田牧三
今泉英
太田康弘
鈴木肇
永田六兵衛

火入式

新城市議会議長　藤原眞治
新城市教育長　小林芳春

連吟　枕慈童

永田聡子

鈴木富代
辻田育代
金田夏代子
小林寿枝
高和ゆく子

荒川享子
水谷麻朱子
竹下京子
加藤佳子
鈴木芳子
今岡アイ子

連管　下り羽

加藤貢
太田研司
今泉英三
酒井淑規

舞囃子　大江山

中嶋薫

大鼓　清水俊典
小鼓　永田聡子
笛　中川斉

ごあいさつ

新城市長　山本芳央

狂言　文荷

太郎冠者　大原正巳
次郎冠者　天野雅夫
主　畑中良雄
後見　佐野元之助

6時40分頃

7時40分頃

独鼓　月宮殿　栗谷浩之　後藤佳代子

連調　田村　中村邦生　高和ゆく子　鈴木芳子　栗谷明生　小林寿枝　永田聡子　星野弘子

独調　八島　中村邦生　今岡アイ子

仕舞
田村
草紙洗小町
羽衣
葛城
小林寿枝
辻田育代
加藤佳子
竹下京子

狂言　二人袴
聟　水谷至男　親　酒井宏
男　小林常男　太郎冠者　権田重紘
後見　佐野元之助

8時10分頃

能　葵

シテ　今泉英三　シテツレ　竹内省吾
上
ワキ　竹内三郎　ワキツレ　加藤貢
間　加藤賢一

大鼓　清水利高　小鼓　森田收
大鼓　中嶋康夫　笛　酒井淑規

後見　栗谷明生　鈴木肇
地謡　牧野修　太田康弘　鈴木崇史　栗谷能夫　田中洋二　栗谷浩之

附祝言

（終了予定九時頃）

主催　新城市文化協会
後援　新城市　新城市教育委員会　新城市観光協会

あらすじ

狂言

文荷（ふみにない）

主人から手紙の使いを云い付けられた太郎冠者と次郎冠者、手紙の宛先は〝せんみつ殿〟と呼ばれる若衆です。日頃から主人の若衆狂いをにがにがしく思っている二人の冠者は、主人の陰口を言い合いながら交替で手紙を持ち歩きますが、ついには竹棹の中央に手紙を吊り下げ、二人で肩にかついで行きます。所詮持ちたくもない手紙、肩にくい込む余りの重さに、何ごとが書いてあるか興味半分、とうとう二人は手紙の封をといてしまいます……。

手紙をかついで能「恋重荷」の一節を謡いながら道行きをし、封をといてしまえば扇であおぎ散らすなど、多分に能のパロディを意識させます。

狂言

二人袴（ふたりばかま）

大安吉日に妻の実家へ初めて挨拶に行く「聟入り」をすることになりますが、恥ずかしくて一人では行けないので親について行ってもらいます。親の方はすぐ帰るつもりで長袴は一つしか持って行きませんでした。ところが先方の門前で太郎冠者に見つけられ、初めは一つの袴を代わる代わるにはき替えて舅の前へ出ていましたが、両人一緒にと言われ、さて、その首尾は……

能

葵上（あおいのうえ）

左大臣の御息女で、光源氏の北の方（正室）である葵上が物怪に悩まされ寝込んでいるので、貴僧高僧を召して加持祈祷を行ったり、さまざまな医療をほどこしてみたが、いっこうその効き目がない。そこで朱雀院に仕える延臣が、梓の弓によって亡霊を呼び寄せる呪法の上手である照日ノ巫女に命じて、怨霊の正体を占わせます。すると、梓の弓の音にひかれて、源氏の愛人であった六条ノ御息所の生霊が破れ車にのって現れます。そして、源氏の愛を失った恨みを綿々と述べ、葵上の枕元に立ち寄って責めさいなみ、幽界へ連れ去ろうとします。〈中入〉

臣下は、ただならぬ様子に、下人を呼び、横川ノ小聖という行者のもとへ走らせます。急ぎ駆けつけた行者が、早速に祈祷を始めると、御息所の怨霊が、鬼女の姿で再び現れ、行者を追い返そうとして激しく争いますが、その法力には敵しえず、ついに祈り伏せられ、悪鬼さながらの怨霊も心を柔らげて成仏します。

薪　能（たきぎのう）

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではありません。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎えの信仰行事でありました。それに伴って行われる猿楽が「薪の猿楽」でありました。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修二会（しゅにえ）に鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化しました。初めは寺に所属する呪師（しゅし）が司っていましたが、後、猿楽者が代行するようになりました。能楽が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していましたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになりました。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城市文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、流派を問わず誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇ヵ所程薪能が催されていますが、職分の先生方の演能がおおく、新城薪能は素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じて居ります。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

薪能の短歌・俳句を募集しております。あなたの作品を文化協会事務局へお寄せ下さい。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方はお気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。　それぞれの向きにお世話を致します。